

宮古島市総合博物館図録第1集 - 旧家資料編 -

宮古島市総合博物館

2012年

目 次

1. 図版	1
(1) 忠導氏仲宗根家関係資料	1
(2) 向裔氏本村家関係資料	21
(3) 根間氏宮国家関係資料	26
(4) 英俊氏伊志嶺家関係資料	28
2. 資料目録	30
3. 参考資料	36

凡 例

1. 本書は、宮古島市総合博物館図録第1集として、同館収蔵の、忠導氏仲宗根家、向裔氏本村家、根間氏宮国家、英俊氏伊志嶺家、祥雲寺の寄託資料を図録としてまとめたものである。
2. 本書の図版において青字で記した資料は、宮古島市指定文化財を示す。
3. 資料番号における、「H」は、旧家資料を表す分類記号である。
4. 本書内における各資料の名称は、本館の登録資料名を用いている。
5. 本書内における資料解説及び、巻末の参考資料は、平良市総合博物館第46回特別企画展「忠導氏仲宗根家資料展」冊子を参考にした。
6. 本書内における資料の無断利用を固く禁ずる。
7. 図録の写真撮影及び編集作業は、宮古島市総合博物館職員が行った。

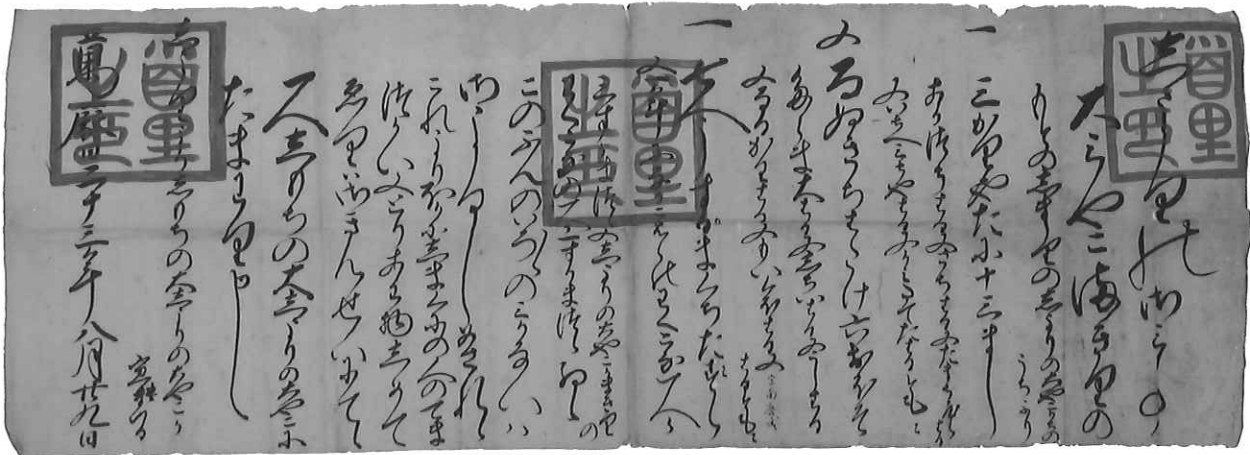
(1) 忠導氏仲宗根家関係資料

仲宗根豊見親を祖とする忠導氏は、旧藩時代には白川氏とともに宮古を二分するほどに勢力をふるった旧家である。仲宗根豊見親は、与那覇原との戦いに勝って宮古を統一した目黒盛豊見親の玄孫で、白川氏三代目大里大殿にかわって、宮古主長になった人物だと伝えられている。「球陽」によれば、1500年、仲宗根豊見親は、八重山のオヤケアカハチを討つ中山軍の先導をした功績により宮古の頭職に、夫人宇津免嘉は、初代大安母に任命されたと記されている。

その後、忠導氏とその支流(三男・知利真良豊見親を祖とする宮金氏、金志川那喜大知豊見親を祖とする仲立氏)一門からは、多くの頭職(平良・砂川・下地)をはじめ、首里大屋子、与人など、この島の中樞に位置する数少ない要職を勤める者がでた。忠導氏正統仲宗根家の位置する地域の里名は、外間(ふかま)で同家を大外間(うぷふかま)と称していた。

なお、同家に収蔵されている数十点の文書・史・資料類の多くは、18世紀ごろのものであるが、なかには16世紀にさかのぼるものもあり、代々、当主が引き継いできたものである。同氏の勢力の推移及び宮古の歴史の流れを解明するうえで重要な文化財である。

宮古島市指定文化財(歴史資料)。指定年月日：1981(昭和56)年10月21日

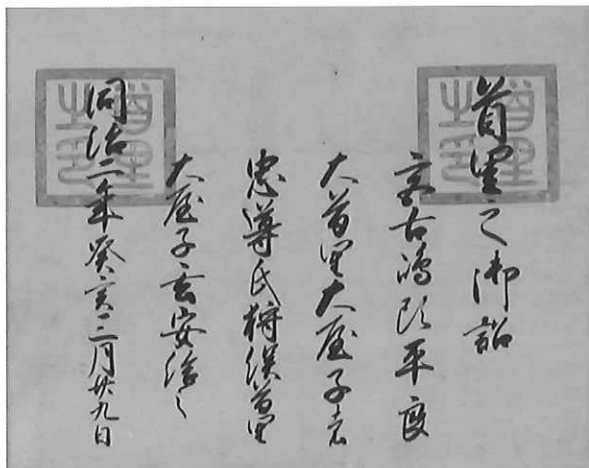


1. 辞令書 (写本) *宮古島下地の首里大屋子への辞令書

資料番号 H-17 / 規格：縦 26.3 cm、横 73.0 cm

万暦 23(1595) 年 8 月 29 日、首里王府が下地の頭に与えた辞令書で、当時の地名、丈量の単位、頭職の勢力を知る上で貴重な資料である。また、薩摩侵略以前の辞令としては、数少ない文書の 1 つである。原本は、沖縄県立博物館・美術館に収蔵されている。

この辞令書をもった、もと島尻首里大屋子とは、白川氏 7 世恵傳と考えられる。『白川氏正統系図家譜』(1754 年編)によれば、恵傳は、万暦 20 年に下地の頭になり、「同 23 年乙未 8 月 29 日蒙領下地之租納」と記されている。



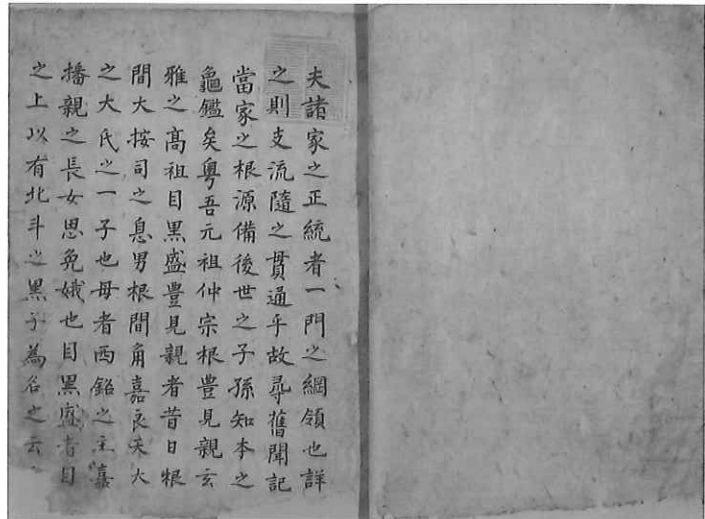
首里之御詔
 宮古嶋頭平良
 大首里大屋子者
 忠導氏狩俣首里
 大屋子玄安給之
 同治二年癸亥三月廿九日

2. 辞令書

資料番号：H-16 / 規格：縦 57.3 cm、横 46.3 cm

同治 2(1863) 年 3 月、忠導氏 14 世玄安が平良の頭を授けられた時の辞令書である。玄安は、同治 10 (1871) 年、上国からの帰途、暴風にあつて台湾に漂着し、原住民によって殺害された人物である。

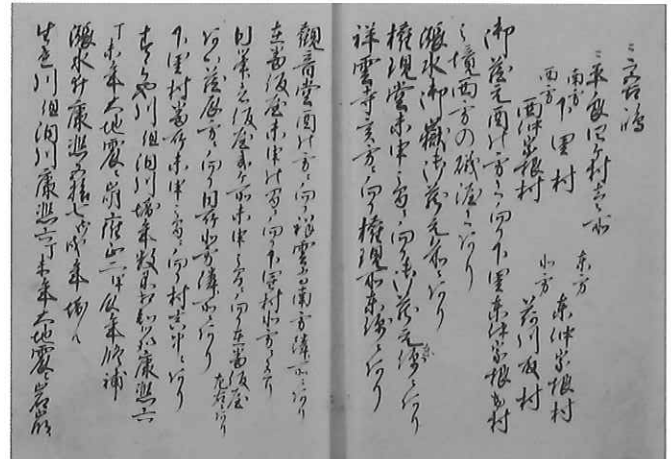
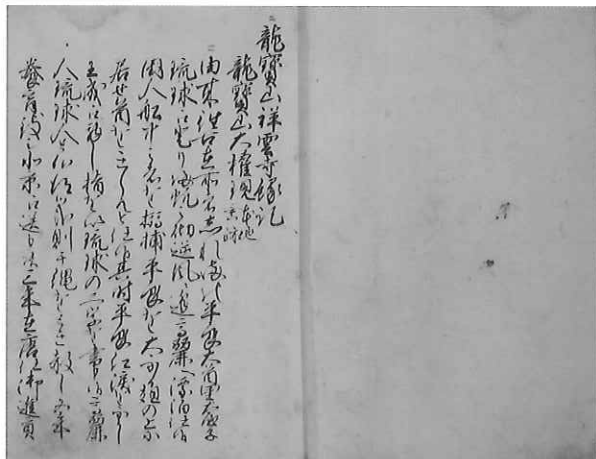
『忠導氏系図家譜 正統』によれば、「尚泰王代 同治二年癸亥三月二十九日平良之頭御朱印頂戴」とある。



3. 忠導氏系図家譜正統

資料番号：H-14 / 規格：縦 27.0 cm、横 20.0 cm

乾隆 22(1757) 年 10 月、10 世狩俣親雲上玄賢によって編修された。序文・系図・家譜の順で、元祖玄雅から 16 世玄綱まで書きつがれ、序文には元祖仲宗根豊見親が宮古島主目黒盛の玄孫であること等が記されている。

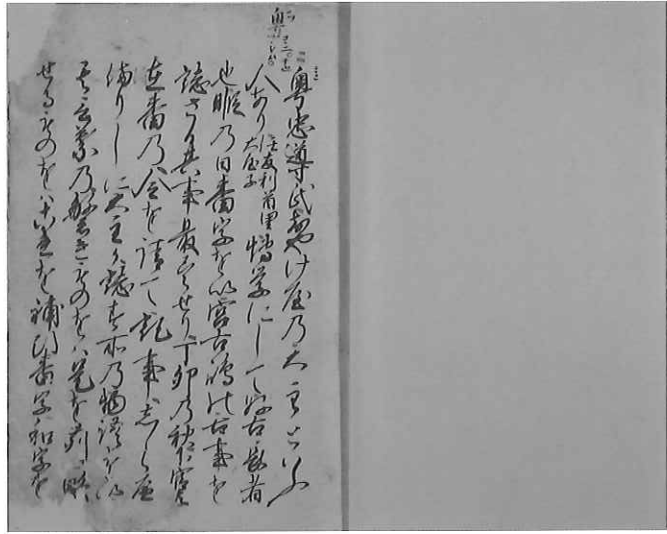
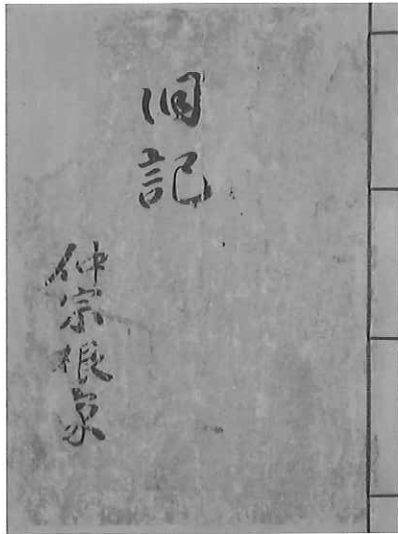


4. 宮古島日記

資料番号：H-12 / 規格：縦 27.5 cm、横 20.0 cm

表題は、旧記となっているが、内容は「御嶽由來記」（康熙 44～46〔1705～1707〕年）、「雍正旧記」（雍正 5〔1727〕年）、「宮古島記事」（乾隆 17〔1752〕年）の 3 冊が合冊されている。

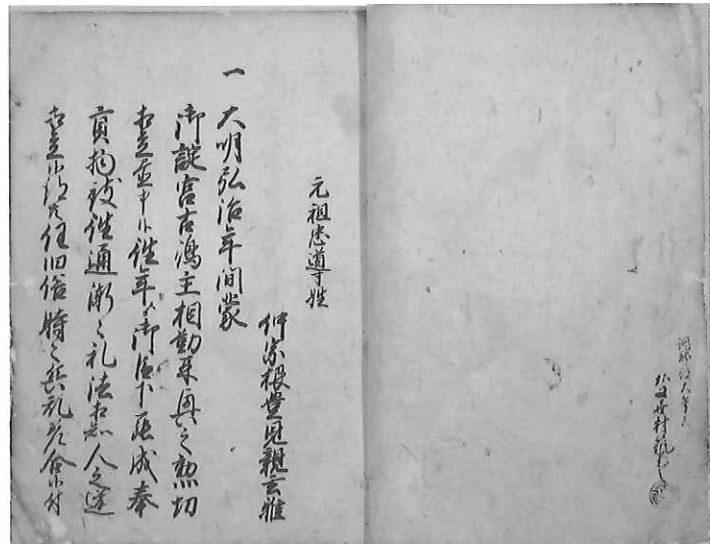
それぞれについて「右記事御用ニ付相調部差上御座候……」といった文が末尾に付せられており、王府の命で蔵元役人が調査、報告した体裁となっている。写本とみられるが、月日・署名等はなく、いつ誰の手による写本か定かではない。



5. 宮古島記事仕次

資料番号：H-13 / 規格：縦 27.2 cm、横 20.0 cm

忠導氏おやけ屋の大主(友利首里大屋子 名乗・生卒不明)が漢字で書いたものをもとにして、在番筆者明有文長良が仮名を交えて編修したことが冒頭に記されている。収録は宮古島創世の神話、伝承等が忠導氏を中心に 119 枚収録されている。また、「与那覇勢頭豊見親逗留旧跡」、「歴代中国皇帝在位年数」、「八重山嶋大祖名田大父忠勤由来之掛物写」、「長栄姓家譜写」等が 18 枚添付されている。



6. 勤書

資料番号：H-15 / 規格：縦 27.2 cm、横 20.3 cm

弘治年間(1488～1505年)は、仲宗根豊見親が大里大殿の子能知伝盛の死後、宮古の支配者としての地位を確立したと伝えられる時期である。それより同治9(明治3=1870)年までのおよそ400年間にわたる外間の歴代当主の功績がつづられている。

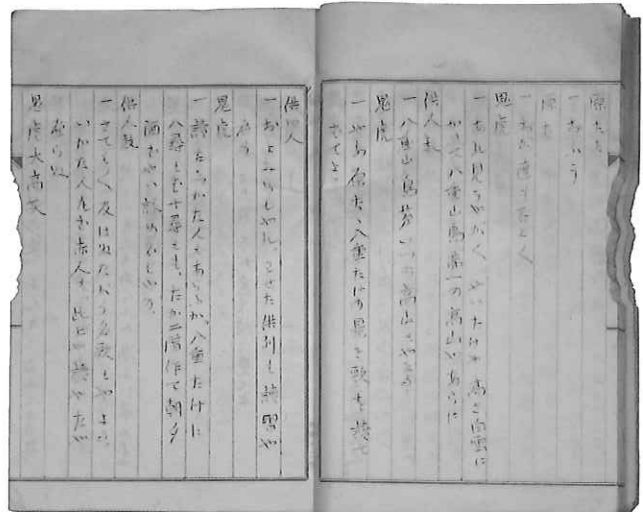
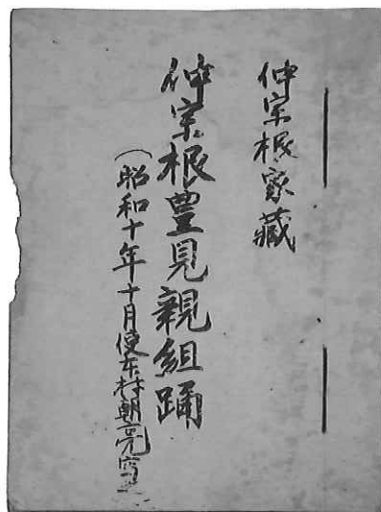


7. 宮古島舊記 (写本)

資料番号：H-131 / 規格：縦 27.4 cm、横 19.6 cm

1934(昭和9)年、平良町役場が刊行した『平良町制10周年記念誌』の事実上の編集責任者である元平良村長・本村朝亮(1876～1937年)が、ケイ紙にカーボンを用いて複写したものである。

『宮古島旧記』と題して、『10周年誌』巻末に収録されているものの稿本である。70枚綴りになっており、原本が草書体の難解なものだけに、少なからぬ利便を図ったものと考えられる。



8. 仲宗根豊見親組踊 (写本)

資料番号：H-129 / 規格：縦 27.5 cm、横 20.0 cm

表紙には、「仲宗根家藏 仲宗根豊見親組踊 (昭和十年十月使本村朝亮写之)」と3行で記されており、1935(昭和10)年、本村朝亮がケイ紙にカーボン紙で写したものである。ケイ紙31枚綴りである。多良間の原本には、「光緒15丑年8月吉日與之 忠臣仲宗根豊見親組 仲筋村」"と記されており、多良間島仲筋村の"八月踊り"で古くから上演されているものである。



9. 扁額「太平山」

資料番号：H-3 / 規格：縦 59.7 cm、横 131.5 cm / 材質：木製（イヌマキ）

朱漆地文字金箔、緑黒漆金箔牡丹文

1756年に上国した砂川親雲上玄勝が、長白全魁に書いてもらったもので、刻したのは、晁氏久保田筑登之親雲上である。全魁は、1756年7月尚穆王への冊封正使として来琉し、翌年1757年1月30日に帰国した。官名は、翰林院待講である。

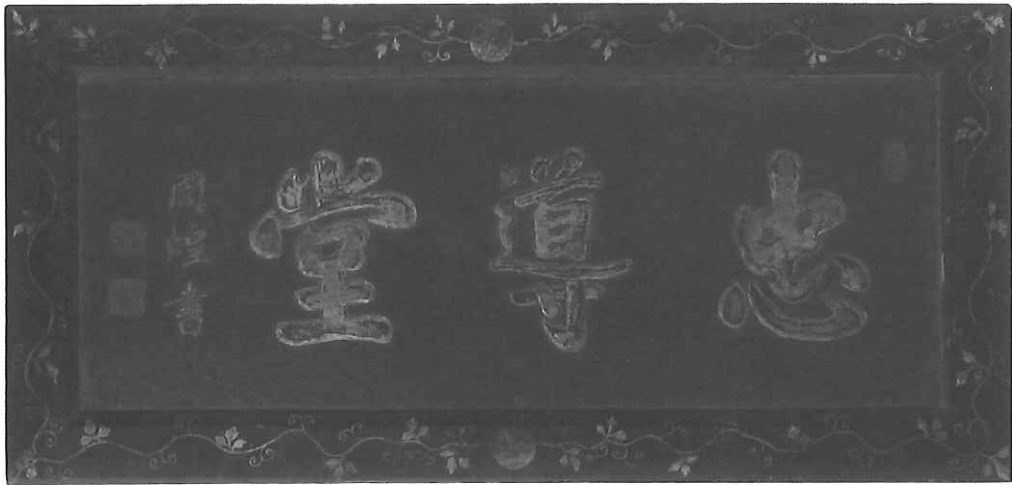


10. 扁額「忠勲流芳」

資料番号：H-7 / 規格：縦 38.8 cm、横 114.0 cm / 材質：木製（センダン）

黒漆地文字金箔、緑漆塗

「為仲宗根豊見親題」と左隅に記されている。向乗彝が仲宗根豊見親を「忠勲流芳」と称え、文字を刻して贈呈した扁額である。向乗彝は、向氏辺土名家12世朝吉で、1846年に親雲上になった人物である。



11. 扁額「忠導堂」

資料番号：H-6 / 規格：縦 58.2 cm、横 122.2 cm / 材質：木製（イヌマキ）

朱漆地文字金箔、緑黒漆地金箔菊花文

1756年7月8日、尚穆王への冊封副使として正使全魁とともに来琉した周焯の書いたものである。周焯の官名は、翰林院編集で、『琉球国志略』を著した人物である。



12. 扁額「世捧貢」

資料番号：H-4 / 規格：縦 48.0 cm、横 99.2 cm / 材質：木製（イヌマキ）

黒漆地文字金箔

乾隆丙子（1756年）、上国した砂川親雲上玄勝が、古愚社松に書いてもらったもので、刻したのは蔡氏志多伯である。表には、「乾隆丙子（1756年）冬為烏路嘉先生書」、裏には経緯が記されている。



13. 扁額「元勳堂」

資料番号：H-5 / 規格：縦 49.0 cm、横 118.0 cm / 材質：木製

黒漆地文字金箔、緑黒漆

乾隆 26(1761) 年に、宮金氏野原目差寛令が、金巨に書いてもらったものである。金巨は、唐名で、豊氏知念筑登之親雲上と呼ばれ、乾隆 26～28 年まで宮古に詰医者として滞在し、29 年に帰任した人物である。



14. 扁額「慎獨」

資料番号：H-6 / 規格：縦 80.0 cm、横 38.4 cm / 材質：木製（センダン）

鄭嘉訓によって書かれた扁額である。鄭嘉訓は、久米村出身で、鄭週（明治時代後期に活躍した書家）の流れをくむ琉球の代表的な書家である。



(表)

(裏)

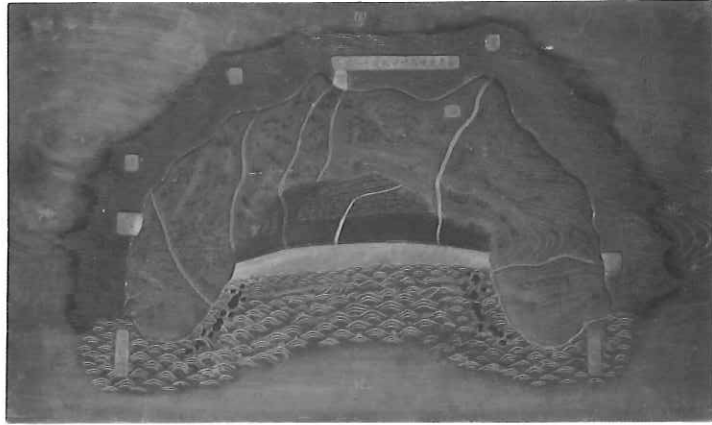
15. 扁額「德巖居士」(国王頌徳碑)

資料番号：H-41 / 規格：縦 51.3 cm、横 118.5 cm / 材質：木製(イヌマキ)

黒漆地朱文字縁白顔料

表文は、首里城の守礼門から金城をへて識名・豊見城の真玉橋へ抜ける"真玉道"入口の東側に立っていた碑「首里おきやかもいかなしの御代にみやこよりち金丸みこしみ玉のわたり申候時にたて申候ひのもん」の写しである。仲宗根豊見親が琉球王尚真(1477~1526)のとき宝剣治金丸と宝玉を献上したというもので「大明嘉靖元(1522)年壬午12月」のことである。

裏文の「德巖居士」とは、仲宗根豊見親・玄雅の戒名である。文字は、1712～1716年まで龍宝山(祥雲寺)の住職を勤めた得髓によるもので、玄雅の功を称えることばが記されている。



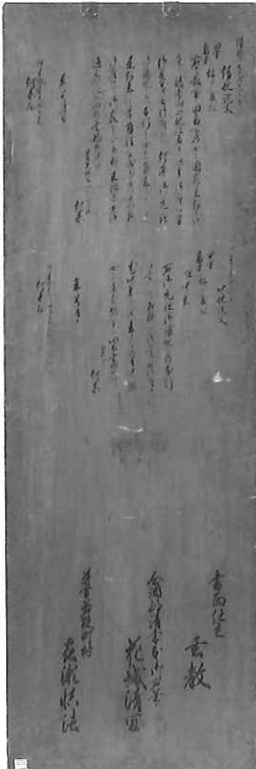
16. 木刻拝領地之図

資料番号：H-11

規格：縦 46.0 cm、横 77.0 cm、厚 1.5 cm / 材質：木製(センダン)

仲宗根豊見親がアカハチ征討の功績で尚真王から下賜された領地長間田一帯の木刻の地図であるが、作成されたのは 18～19 世紀の頃と考えられる。

南を上、東端の与那浜崎と西端の渡地崎との間にある海岸沿いの原野・田畑の中を道が 7 本走り、御嶽が 1 つ示されている。



17. 木簡

資料番号：H-10

規格：縦 51.3 cm、横 118.5 cm

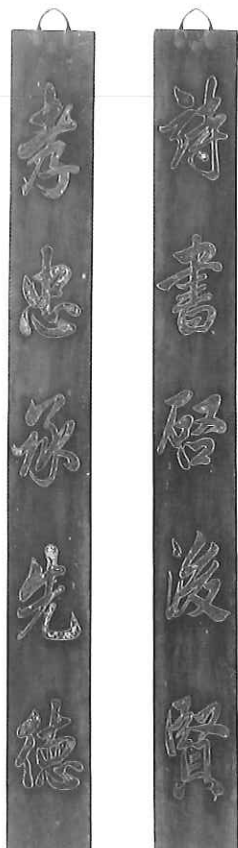
材質：木製(イヌマキ)



18. 聯

資料番号：H-26,H-27

「河潤千里生榮光」(H-26)、「雲岳九天作玉葉」(H-27)の一对の聯である。



19. 聯

資料番号：H-75 / 規格：縦 119.1 cm、横 11.8 cm

木製(イヌマキ)。漆地文字黒漆。

(右)孝忠承先徳 (左)詩書啓後賢



20. 掛軸「渡地」

資料番号：H-39

規格：縦 112.4 cm、横 51.0 cm / 作者：瑞泉



21. 掛軸「芭蕉」

資料番号：H-40

規格：縦 138.7 cm、横 62.2 cm / 作者：華国



22. 掛軸「山水」

資料番号：H-35

規格：縦 55.9 cm、横 26.5 cm / 作者：成章



23. 掛軸「花鳥図」

資料番号：H-38

規格：縦 55.2 cm、横 26.7 cm / 作者：成章



24. 金頭銀茎簪

資料番号：H-78 / 材質：金銀

八重山の「オヤケアカハチ征討」に伴い、琉球王より賜った簪である。玄雅には獅子の形を彫刻した金頭銀茎の簪と単衣の白絹一領を与え、宮古島の頭職を任じ、婦人の宇津免嘉には、鳳凰の形を彫刻した金頭銀茎の簪と白絹一領、1個の玉を与え、大安母の職を与えたといわれる。戦前に火事があって、その時2本の簪が溶着したと思われる。



25. 位牌

資料番号：H-79 / 規格：縦 82.0 cm、横 76.0 cm、奥行 19.7 cm

康熙 52 癸巳 (1713) ~ 康熙 54 乙未 (1715) 年、9 世玄邑下地親雲上の依頼により製作された。全体透漆塗りで、上部が宝珠形、左右に蓮華を彫った飾りを付す台座付の位牌。木彫、沈金、彩色が施される。目の詰まった材上部に亀裂が入る。位牌前面は上部に宝珠端雲、下部中央に大蓮華 1 とその左右に小蓮華が 2 を沈金と朱・緑の漆絵で表す。元祖神宗根豊見親夫妻を中心に、8 世 9 人の歴代当主の名が右へ、正室名が左へと、左右対称になって山形に戒名、官名、字が並記されている。唐位牌で、中央が心持ち丸みをおびて突き出ている。これほど大型の位牌は宮古では他にないものである。裏面の碑文は祥雲寺住職得髓長老が康熙 54 (1715) 年春に記したとされている。『在番記』によれば得髓は康熙 51 ~ 55 年まで在勤、病気のため翌 56 年まで滞在している。なお戒名が 8 代 9 名であるのは、第 2 代の次男祭金と四男馬之子の 2 人が出ているためで、碑文末尾に「末孫松原宗相信士立大位牌謹奉祭祀」とあるのは 9 代玄邑のことである。



26. 黒漆蘭竹菊梅箔絵東道盆

資料番号：H-2 / 規格：縦 30.0 cm、横 30.0 cm、高さ 13.0 cm

東道盆とは、中国から渡った食籠の一種で、中国では<東>は主人を意味し、<東道>はお客に対する主人役を意味することから、お客を接待するときにごちそうを盛る盆のことである*。盆の表面には春蘭、夏竹、秋菊、冬梅と記され各文様が箔絵で施されている。中には、朱色で金の縁取りの八角形の皿を中心に4枚の皿がある。

*『沖縄大百科事典 中巻』（沖縄タイムス社 1983）より引用



27. 角皿

資料番号：H-25 / 規格：口径 9.0 cm、幅 18.4 cm、高さ 6.5 cm



28. 飴釉燭台 資料番号：H-1
沖縄産陶器（壺屋焼）。



29. 青銅製香炉 資料番号：H-82



30. 錫製鶴口瓶 資料番号：H-89



31. 酒注 資料番号：H-19



32. 錫製酒器(大) 資料番号:H-87



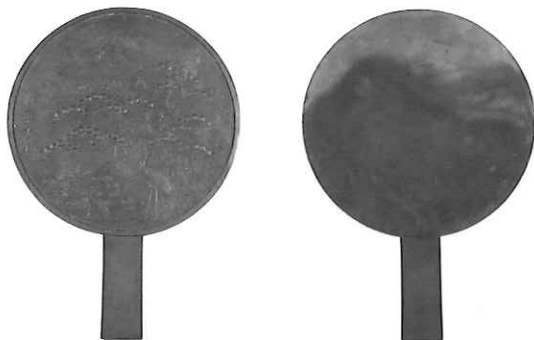
33. 錫製酒器(小) 資料番号:H-88



34. 錫製湯呑 資料番号:H-20



35. 南蛮甕 資料番号:H-18
規格:口径 19.5 cm、底径 25.2 cm、高さ 58.0 cm
タイ産の褐釉陶器である。



36. 白銅鏡(大)
資料番号:H-23
規格:鏡径 23.2 cm、長さ 33.1 cm
「藤原吉長」の銘有り。



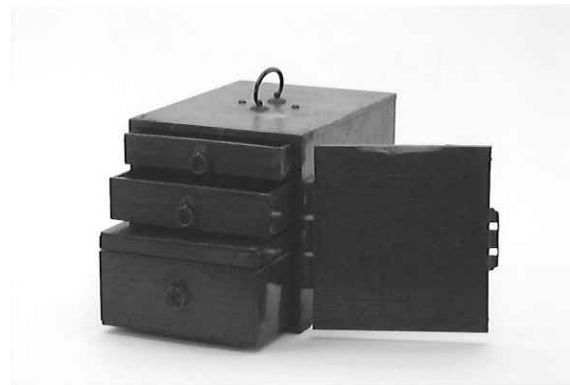
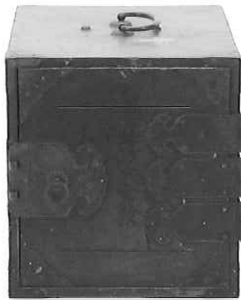
37. 白銅鏡(小)
資料番号:H-24
規格:鏡径 17.5 cm、長さ 27.0 cm
「天下一木口村因幡守藤原吉次」の銘有り。



38. 帳箱 (大)

資料番号：H-22/ 規格：横 39.5 cm、縦 40.5 cm、高さ 39.5 cm

内部には、三段重ねの引き出しが付き、正面には、「宮古郡忠導姓仲宗根玄教」と忠導氏の家紋が墨書されている。ニス塗りされている。



39. 帳箱 (小)

資料番号：H-21/ 規格：横 20.4 cm、縦 29.4 cm、高さ 21.4 cm

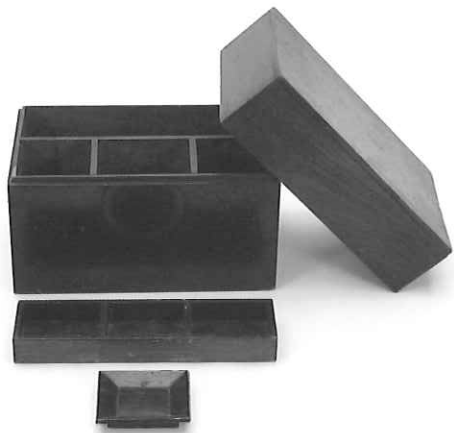
内部には、三段の引き出しが付き、正面には、「忠導氏玄教」と墨書されている。



40. 煙草盆 資料番号：H-91



41. 椰子ビン 資料番号：H-112



42. ビンシー

資料番号：H-111 / 規格：縦 14.5 cm、横 23.5 cm、高さ 18.0 cm *木箱の規格



43. ビンシー

資料番号：H-102 / 規格：縦 19.5 cm、横 27.0 cm、高さ 20.0 cm *木箱の規格



44. 粮供碗セット 資料番号：H-99
「大正七年十二月 粮供碗家 小平蓋拾個 菜皿拾個」と墨書



45. 粮供碗セット 資料番号：H-98
「大正七年十二月 粮供碗家 二重碗拾人 小皿拾個」と墨書



46. 菓子皿 資料番号：H-97
規格：縦 19.5 cm、横 19.5 cm、高さ 20.0 cm *木箱の規格



47. 重箱セット 資料番号：H-101



48. 足付き盆(小) 資料番号：H-103



49. 足付き盆(大) 資料番号：H-104



50. 三方 資料番号：H-106



51. 高御膳(大) 資料番号：H-107
規格：縦 34.0 cm、横 34.5 cm、高さ 26.0 cm

(2) 向裔氏本村家関係資料

名乗り頭に「朝」の字をもつ系統は、宮古では「向裔氏」と呼ばれ、沖縄本島の向姓の流れをくむものである。いくつかの系統があるが、今、出自が明らかなのは、二つの系統のみである。

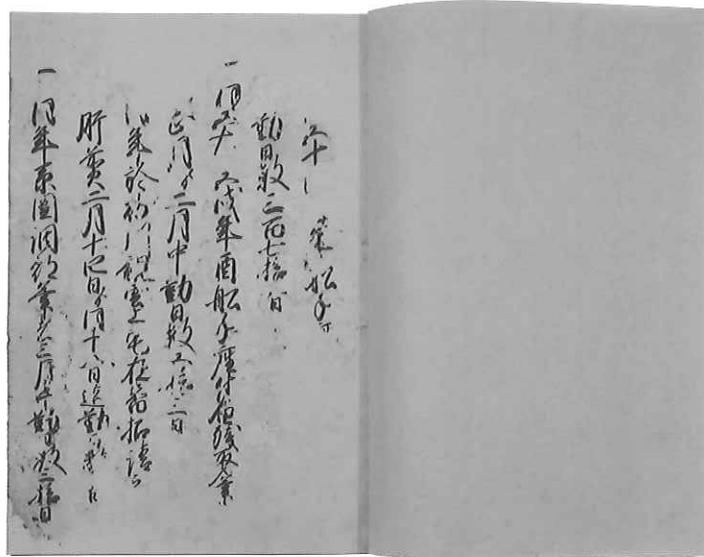
一つは、浦添親方朝師と多良間の土原氏・計志真良との間に生まれた子・朝裔を祖とする屋号「多良間」の系統。もう一つは、北谷里之子朝乗(のちの内間親方)と洲鎌村の百姓の女・比良寿との間に生まれた子・朝忠を祖とする屋号「前比屋」系統である。

朝裔は、1647(順治4)年に下地の頭、朝忠は、1729(雍正7)年に平良の頭を勤めた人物である。

向裔氏本村家は、「前比屋」系統からの出で、朝忠の子・朝宜の三男・朝副を祖とし、屋号を「ウプンターラ」と称している。朝副は、荷川取与人、西仲宗根与人、伊良部首里大屋子等の要職に就いた人物で、この「ウプンターラ」系統からは、朝副の孫朝祥が咸豊元(1851)年に下地の頭、朝祥の曾孫朝亮が大正8(1919)年に平良村長を勤めている。朝祥は、「割重穀事件」(1848年)や「讒書事件」(1860年)に関わった人物であり、朝亮は、宮古の歴史研究者として知られている人物である。

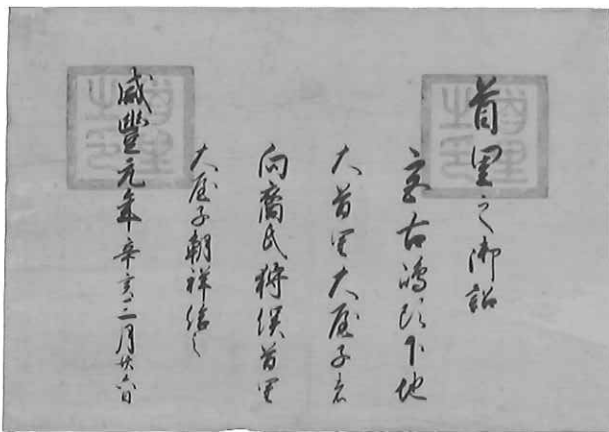
同家に収蔵されている史・資料は、朝祥、朝亮に関わるものが大半である。時代としては19世紀以降の資料であるが、同家の勢力の推移及び旧藩末期以降の世相を知る上で貴重な歴史資料である。

宮古島市指定文化財(歴史資料)。指定年月日：1986(昭和61)年3月26日。



1. 草案下書

資料番号：H-48 / 規格：縦 27.5 cm、横 21.0 cm



首里之御詔

宮古嶋頭下地

大首里大屋子者

向裔氏狩俣首里

大屋子朝祥給之

咸豊元年辛亥三月廿六日

2. 辞令書

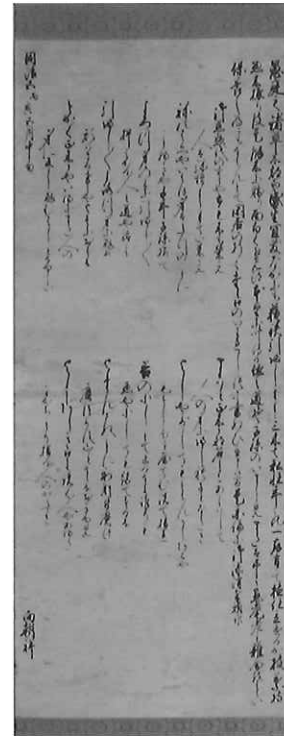
資料番号：H-41 / 規格：縦 32.6 cm、横 46.2 cm

咸豊元(1851)年に、狩俣首里大屋子であった向裔氏朝祥が下地の頭を授けられた時の辞令書である。



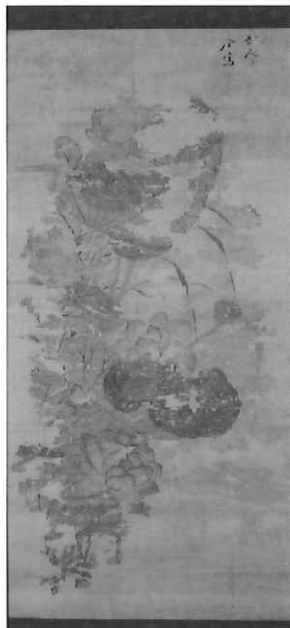
3. 書幅「謹誌」

資料番号：H-42 規格：縦 96.2 cm、横 41.0 cm



4. 書幅「向朝祥書琉歌十首」

資料番号：H-43 / 規格：縦 93.6 cm、横 38.2 cm
同治丙寅(1866年)に、向朝祥(本村朝祥)が10首の琉歌を書いたものである。



5. 掛軸

資料番号：H-47 / 規格：縦 108.5 cm、横 51.5 cm



6. 掛軸

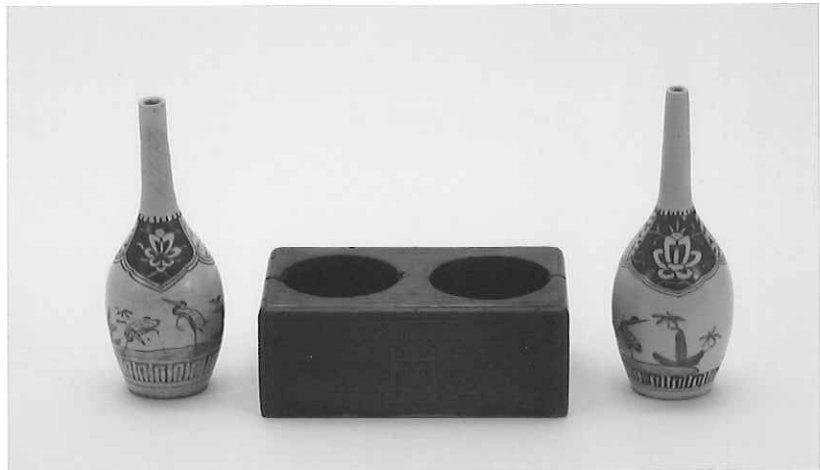
資料番号：H-46 / 規格：縦 92.2 cm、横 36.8 cm



7. 扁額「善淵堂」

資料番号：H-49 / 規格：縦 30.0 cm、横 73.0 cm / 材質：木製（イヌマキ）

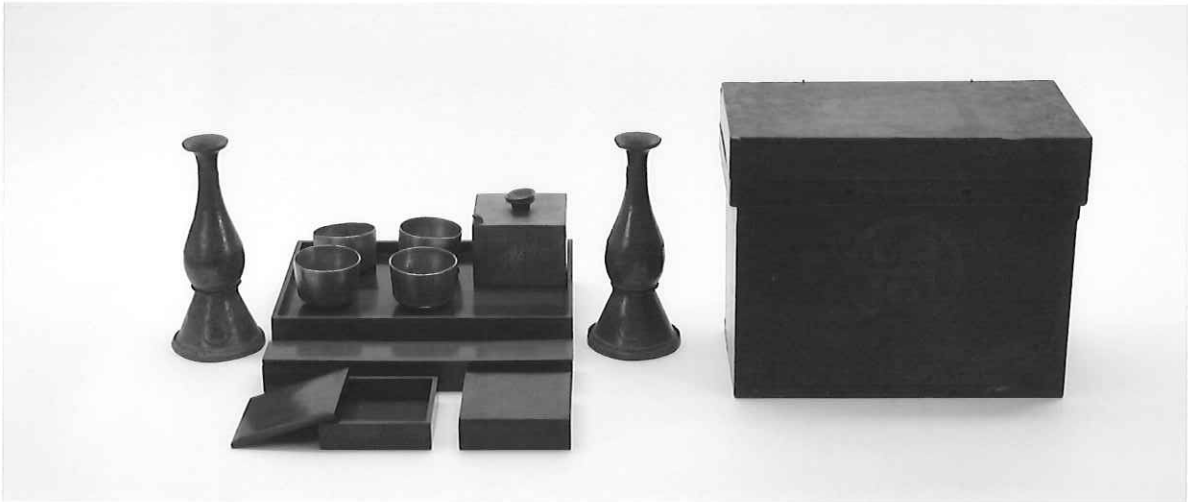
文字は、黒漆で記されている。書は、尚有恒によるものである。尚有恒は、1862～1875年まで三司官を務めた宜湾朝保の唐名である。



8. 酒器対瓶

資料番号：H53

鶴口瓶 1 対と、それをおさめる木製容器のセットである。鶴口瓶は、肥前（有田）産の色絵瓶で、表面には、松や鶴などが描かれており、19 世紀前半の陶磁器である。木製容器の正面には、家紋が朱色でかかっている。



9. 祭祀用具一式 資料番号：H-50

箱、チュウガイ(1対)、お膳(1点)、菜箱(2点)、箸入れ(1点)、方形酒器セット



10. 重箱 資料番号：H-51

規格：縦 21.0 cm、横 25.5 cm、高さ 18.0 cm



11. 手文庫 資料番号：H-52

規格：縦 24.4 cm、横 15.7 cm、高さ 16.5 cm

(3) 根間氏宮国家関係資料

根間氏宮国家は、14世紀中葉に与那覇原の軍勢をやぶって、宮古を統一した目黒盛豊見親の子・真角与那盤殿の次男の伊嘉利を祖とする系統である。

根間の伊嘉利は、「祖先の霊が安らかに昇天し、島中が豊作し子孫繁盛する」という「コネリ祭」をはじめた人物で、この系統は名乗り頭に「定」がつく。この系統は、屋号を「東原家」と称し、頭以下宮古の中枢に位置する要職を勤める人物を数多くだしている。

同家収蔵の史・資料には、刀剣や帳箱などの資料が含まれている。



1. 刀剣

資料番号：H-54 / 全長：65.8 cm

「東原御嶽の刀剣」である。柄の部分に「大和守」と銘がある。



2. 角皿

資料番号：H-59



3. 帳箱

資料番号：H-60

規格：長さ 29.0 cm、幅：19.5 cm、高さ：20.0 cm



4. 糕菓子型

資料番号：H-57

規格：長さ 40.0 cm、幅 5.8 cm、高さ 2.8 cm

照り葉木 (やらう木) 製。



5. 煙草入れ

資料番号：H-61

照り葉木 (やらう木) 製。

(4) 英俊氏伊志嶺家関係資料

英氏は、英祖王の末葉といわれ、宮古の英俊氏は、英氏 4 世重祐の次男・恒充を祖とし、名乗り頭に「恒」の字がつく。

恒充は、洲鎌与人をつとめた人物で、この系統からは、1767 年に恒道が平良の頭となっている。恒道については、1747 年、中山からの帰途、暴風にあって台湾に漂着、順風をまっている時、帆柱のおれた清国の船が恒道の船の近くに漂着し、救助を求めたため、恒道は少ない水や食料を分け与えて総員 24 名を救助した。

このことを知った清国皇帝は、布、綿花、茶、酒などの品を贈り恒道の義挙を讃え、更に尚敬王に書を送って「守礼の国の名に恥じない仁心大義」と讃えたと伝えられている。

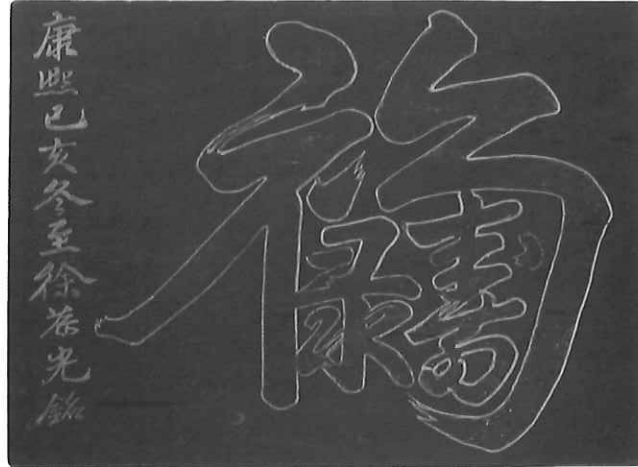
英俊氏伊志嶺家の収蔵品には、1719 年 6 月に冊封副使として来流した徐保光の書いた「福祿寿」の扁額などがある。



1. 扁額「福祿寿」

資料番号：H-73 / 規格：縦 47.5 cm、横 136.0 cm、厚さ 1.5 cm / 材質：木製(ヤラブ)

「徐保光」の銘が記されている。徐保光は、尚敬王の冊封使として 1719 年に来島し、翌年 2 月に帰国した。『中山伝信録』などを著した。



2. 扁額「福祿寿」

資料番号：H-74 / 規格：縦 47.5 cm、横 136.0 cm、厚さ 1.5 cm / 材質：木製(ヤラブ)

「康熙己亥冬至徐保光名」と記されている。*康熙己亥は、1719 年である。

2. 資料目録 - 旧家資料 -

資料目録 - 旧家資料編 -

太字は、宮古島市指定文化財を表す。

資料番号	資料名	点数	備考(規格の単位はcm)
H-1	飴釉燭台	1対	各径8.6 高16.5
H-2	黒漆蘭竹菊梅箔東道盆	1	縦横共30.0 高13.0
H-3	扁額「太平山」	1	縦59.7 横131.5
H-4	扁額「世棒貢」	1	縦48.0 横99.2
H-5	扁額「元勳堂」	1	縦49.0 横118.0
H-6	扁額「忠導堂」	1	縦58.2 横122.2
H-7	扁額「忠勳流芳」	1	縦38.8 横114.0
H-8	扁額「慎獨」	1	縦80.0 横38.4
H-9	扁額「徳巖居士」(国王頌徳碑)	1	縦118.5 横51.3
H-10	木簡	1	縦130.5 横43.5
H-11	刻板領地之図	1	縦45.9 横77.0
H-12	宮古島旧記	1	2冊に分冊されている。
H-13	宮古島記事仕次	1	2冊に分冊されている。
H-14	忠導氏系図家譜正統	1	
H-15	勤書	1	
H-16	辞令書	1	縦57.3 横54.0
H-17	辞令書(写本)	1	縦26.3 横73.0
H-18	南蛮甕	1	径136.5 高58.0
H-19	酒注	1	幅31.7 高9.0
H-20	錫製湯呑	4	各径7.7 高5.2
H-21	帳箱(小)	1	縦29.4 横20.4 高21.4
H-22	帳箱(大)	1	縦40.5 横39.5 高さ39.5
H-23	白銅鏡(大)	1	鏡径23.2 長33.1
H-24	白銅鏡(小)	1	鏡径17.5 長27.0
H-25	角皿	1対	各口径9.0 幅18.4 高6.5
H-26	聯「河潤千里生榮光」	1	縦187.0 横39.5
H-27	聯「雲岳九天作玉葉」	1	縦187.0 横39.5
H-28	掛軸	1	「滄海……」。縦194.5 横43.5
H-29	掛軸	1	縦197.5 横43.5
H-30	掛軸	1	樹山書。縦194.0 横43.0
H-31	掛軸	1	「犯酒知今は観書悟昨非」。縦200.0 横46.5
H-32	掛軸	1	松圓山本正心書。縦186.5 横69.3
H-33	掛軸	1	在番 松田里之子親雲上書。縦170.0 横53.4
H-34	掛軸「花鳥図」	1	縦194.5 横43.5
H-35	掛軸「山水」	1	縦147.5 横37.8
H-36	掛軸「翁・童図」	1	縦194.5 横43.2
H-37	掛軸「芭蕉・菊・鳥」	1	縦195.0 横43.5
H-38	掛軸「花鳥図」	1	縦146.0 横37.5
H-39	掛軸「渡地」	1	縦175.0 横64.3
H-40	掛軸「芭蕉」	1	縦201.0 横75.5

忠導氏仲宗根家関係資料

資料番号		資料名	点数	備考(規格の単位はcm)
H-41	向裔氏 本村家 関係資料	辞令書	1	縦32.6 横46.2
H-42		書幅 謹誌	1	縦160.0 横52.7
H-43		書幅 向朝祥書琉歌十首	1	縦155.5 横50.8
H-44		掛軸	1	縦178.0 横55.7
H-45		掛軸	1	縦180.0 横36.4
H-46		掛軸	1	縦154.0 横45.4
H-47		掛軸	1	縦169.5 横63.0
H-48		草案下書	1	縦27.5 横21.0
H-49		扁額 善淵堂	1	縦44.4 横87.2
H-50		祭祀用具一式	1式	縦19.5 横35.5 高28.0
H-51		重箱	2	縦21.0 横25.5 高18.0
H-52		手文庫	1	縦15.7 横24.4 高16.5
H-53		酒器対瓶	1式	各径7.5 高21.0
H-54	根間氏 宮国家 関係資料	刀剣	1	長65.8 刀長52.5
H-55		軍隊手帳	1	縦12.5 横9.0
H-56		銅製やかん	1	幅21.5 高24.0
H-57		糕菓子型	1	縦5.8 横40.0 高2.5
H-58		紙銭打ち	1	
H-59		角皿	1対	口径10.5 幅28.0 高9.5
H-60		帳箱	1	縦29.0 横19.5 高20.0
H-61		煙草入れ	1	径7.8 高10.6
H-62	祥雲寺 資料	扁額 慈眼視衆生	1	縦42.0 横130.2
H-63		聯 山花開似錦	1	縦138.4 横18.9
H-64		朱漆盆	1	径26.5 高19.0
H-65		青磁香炉	1	径27.0 高12.0
H-66		青銅製燈籠	1	
[H-67]		誕生仏	1	祥雲寺へ返却。
H-68		掛床 楞嚴令法回向文	1	縦48.5 横40.5
[H-69]		菩提達磨尊	1	祥雲寺へ返却
H-70		絵馬	1	縦31.5 横48.4。神山里之子親雲上政成。
H-71		絵馬	1	縦25.7 横33.3
H-72		磬子	1	径28.2 高23.5
H-73	英俊 氏	扁額 福祿寿	1	縦47.5 横136.0
H-74		扁額 福祿寿	1	縦45.0 横67.0
H-75	忠導氏 仲宗根 家関係資料	聯「詩書啓渡賢」「孝忠家先徳」	1	各縦119.1 横11.8
H-76		拓本	1	縦140.0 横37.5
H-77		拓本	1	縦128.3 横44.5
H-78		金頭銀茎簪	1	長7.0 幅2.8
H-79		位牌	1	元祖から8世まで
H-80		位牌	1	
H-81		位牌	1	
H-82		青銅製香炉	1	径33.0 高22.5
H-83		杯(大)	1対	各径6.6 高8.6
H-84		杯(小)	1対	各径6.2 高7.8
H-85	仏器 銅製燭台 1対	1対	各径7.0 高28.5	

資料番号	資料名	点数	備考(規格の単位はcm)
H-86	仏器 銅製花生	1対	各径12.8 高14.7
H-87	錫製酒器 (大)	1	幅19.0 高7.6
H-88	錫製酒器 (小)	1	幅15.6 高7.8
H-89	錫製鶴首瓶	1対	各径9.5 高25.8
H-90	杯 (錫製)	3	各径5.2 高2.8
H-91	煙草盆	1	縦12.2 横20.0 高22.6
H-92	碗 (中)	6	
H-93	碗 (大)	3	
H-94	鋳銅受 (金属製)	3	
H-95	鋳銅受 (木製)	7	
H-96	粮供碗セット	1	大平二個蓋共・小平拾個・大正七年十二月
H-97	菓子皿	3	縦 横19.5 高20.0
H-98	粮供碗セット	1	小皿拾個・二重碗拾人・大正七年十二月
H-99	粮供碗セット	1	小平蓋拾個・菜皿・大正七年十二月
H-100	花立	1対	蓮華9種類。径11.4 高さ21.6
H-101	重箱セット	1式	家紋入り。縦28.5 横29.0 高27.0
H-102	ピンシー	1式	縦19.5 横27.0 高20.0
H-103	足付き盆 (小)	1	黒色で側面に蓮華を描く。径17.0 高10.9
H-104	足付き盆 (大)	1	朱塗り。径18.0 高13.0
H-105	線香入れ	1	縦31.5 横14.0 高5.8
H-106	三方	2	家紋入り。縦24.6 横24.2 高23.2
H-107	高御膳 (大)	2	家紋入り。縦34.0 横34.5 高26.0
H-108	高御膳 (中)	1	縦33.0 横33.5 高22.5
H-109	高御膳 (小)	1	縦25.0 横25.5 高22.5
H-110	ピンシー	1式	箱のみ。縦14.5 横23.5 高18.0
H-111	ピンシー	1式	縦14.0 横25.5 高27.5
H-112	椰子ピン	2	大 径13.3 高14.9 小 径12.7 高12.2
H-113	茶杯	1	縦 横15.0 高11.5
H-114	コップ	1	径6.7 高7.5
H-115	徳利	1	径6.5 高15.0
H-116	煙草盆	1	幅15.0 高13.5
H-117	小壺	1	径11.0 高18.5
H-118	鶴亀像	1	幅11.5 高27.0
H-119	酒器	1	径8.0 高10.2
H-120	徳利	1	径6.9 高13.7
H-121	小壺	1	2耳付き。径9.3 高16.4
H-122	瓶	1	緑色のガラス製。径9.7 高21.4
H-123	キジ像	1	幅7.7 高19.2
H-124	西郷隆盛像	1	幅14.0 高24.2
H-125	瓶	1	肥前産。径15.0 高30.0
H-126	吊灯籠	1対	縦横共19.0 高36.5
H-127	箱	1	各縦横共45.0 高17.0
H-128	脇息	1	幅44.0 高27.0
H-129	仲宗根豊見親組踊 (写本)	1	縦27.5 横20.0
H-130	仲宗根豊見親組躰書	1	縦17.0 横11.8

忠導氏仲宗根家関係資料

資料番号	資料名	点数	備考(規格の単位はcm)
H-131	宮古島舊記(写本)	1	縦27.4 横19.6
H-132	琉歌集	1	縦25.5 横18.5
H-133	平良青年會々則	1	縦28.0 横19.5
H-134	国勢調査速報・世帯及人口	1	大正10年2月。縦26.0 横19.0
H-135	財産関係書類綴(二冊ノ内一)	1	縦29.0 横20.0
H-136	財産関係書類綴(二冊ノ内二)	1	縦28.0 横20.0
H-137	借地証書綴	1	明治41年。縦19.5 横26.0
H-138	経済簿	1	昭和4年7月以降。縦17.0 横25.0
H-139	雑抖書類	1	大正3年7月以降。縦26.0 横18.5
H-140	織物ニ関スル書類綴	1	大正12年。縦28.0 横20.0
H-141	納税未済織物受拂簿	1	大正12年。縦28.0 横20.0
H-142	納税未済織物受拂簿	1	大正15年4月以降。縦28.0 横20.0
H-143	上布ニ関スル往復書類及計算書類	1	大正13年12月以降。縦26.5 横20.0
H-144	上布ニ関スル往復書	1	昭和3年1月起。縦28.0 横20.0
H-145	證書綴	1	大正10年9月。縦27.0 横20.0
H-146	身元ニ関スル書類	1	大正元年8月以降。縦28.0 横20.0
H-147	表彰状 勅諭御下賜五十年記念	1	縦27.0 横39.0
H-148	表彰状	1	元宮古島郵便局長仲宗根玄純宛。縦27.5 横37.0
H-149	表彰状 宮古郡農工水産品評會褒賞證・細上布壹等賞	1	仲宗根玄純宛。縦32.7 横45.5
H-150	領収書(納税)	23	各縦15.5 横9.5
H-151	学資送金証憑綴	1	縦26.0 横19.0
H-152	千代学資送金	1	縦26.0 横18.0
H-153	学資金貸借ニ関スル契約書	1	縦27.0 横19.7
H-154	長間底農場全地域図	1	縦79.0 横161.0
H-155	蓬菜米関係資料	5	縦24.0 横16.5
H-156	原野保管契約書	1	縦27.5 横20.0
H-157	耕地整理ニ関スル申請	1	縦33.0 横20.0
H-158	稲作実行事項及普通農事記録(第四号)	1	縦20.5 横16.6
H-159	主要書類綴	1	縦28.0 横21.0
H-160	長間底農場報告	1	縦25.0 横35.0
H-161	状況報告ト愚見	1	縦24.0 横16.0
H-162	小作人関係	2	各縦16.0 横23.5
H-163	長間底農場写真	1	写真は11枚。各縦5.2 横9.4
H-164	仲宗根家設計図	1	縦30.0 横46.0
H-165	建築材料に関する領収書	1	最大縦23.0 横18.0
H-166	改築資料	1	最大縦25.5 横36.0
H-167	建築材料関係	1	縦24.2 横16.5
H-168	借用書関係	1	縦24.0 横32.0
H-169	沖縄農工銀行関係書類	1	縦30.0 横22.0
H-170	史跡・仲宗根豊見親之墓 補強工事設計書	1	縦18.5 横26.0
H-171	忠導氏家譜修理前後写真集	1	縦19.0 横24.0
H-172	参考書類綴	1	明治41年。縦28.0 横19.0
H-173	我が家乃系図	1	縦28.0 横20.5
H-174	盆乃心得	1	縦22.5 横15.0
H-175	御手本	1	縦25.0 横17.5

忠導氏仲宗根家関係資料

資料番号		資料名	点数	備 考(規格の単位はcm)
H-176	忠 導 氏 仲 宗 根 家 関 係 資 料	頼山陽先生御眞蹟	1	縦78.5 横54.2
H-177		福澤諭吉先生御眞蹟	1	縦41.0 横107.0
H-178		中江藤樹先生御眞蹟	1	縦53.5 横80.0
H-179		全權松岡洋右先生御眞蹟	1	縦78.5 横54.5
H-180		裏書 (写)	1	縦49.0 横78.0
H-181		書簡	1	尚家知花朝章より仲宗根玄教へ。縦26.0 横18.0
H-182		書簡	1	便せん。仲宗根玄廣より仲宗根玄教へ。縦24.5 横33.0
H-183		書簡	2	仲宗根玄純あて。各縦14.0 横8.5
H-184		朝日新聞	3	各縦55.0 横40.5
H-185		神社建設に関するちらし	1	縦26.5 横38.5
H-186		写真 (仲宗根家・ブカマザーウタキ)	1	写真は2枚。各縦18.9 横24.5
H-187		額付写真	2	長間底農場、他1枚。最大縦32.4 横39.3
H-188		写真絵はがき (沖縄関係)	13	各縦14.2 横9.0
H-189		郵便はがき	4	各縦14.0 横9.1
H-190		攝政宮殿下渡欧記念連続大寫眞葉書帖	1	縦11.7 横17.7

3. 参考資料

①写真(資料番号：H-186 外間座御嶽〔プカマザーウタキ〕、仲宗根家屋敷)

②忠導氏「正統」の主な事跡(家譜資料より)

③「忠導氏系図家譜正統」にみる人々

④忠導氏正統大外間「位牌」(元祖～八世まで)

⑤忠導氏正統大外間「位牌」(9世～十三世まで)

*②～⑤は、平良市総合博物館第46回特別企画展「忠導氏仲宗根家資料展」よりの抜粋

①写真 (資料番号：H-186)



外間座御嶽〔プカマザーウタキ〕 *大正期



仲宗根家屋敷

②忠導氏「正統」の主な事跡 *家譜資料より

元祖・仲宗根玄雅（童名・空広）

天順年間(1457～1464年)生まれ、嘉靖年間(1522～1566年)卒

- 1500年 弘治13 中山軍の先導となって八重山に侵攻、オヤケ赤蜂を討つ。これによって仲宗根豊見親は宮古の頭職に、豊見親の次男・祭金は八重山の頭職に任じられる。
戦勝慶賀奏上のため、妻ウツメガを伴って中山王府へ上る。尚真王これを嘉して、ウツメガを宮古大安母に任じ、金簪1顆、白絹衣1領、素珠1串を賜う(「球陽」)
戦勝祈願成就を記念して漲水御嶽の周囲の石垣を築造する。
(漲水御嶽と石垣は、1974年平良市の文化財に指定されている)
蔵元(政庁)を造営、設置し、人頭割りによる貢租制度を定め、上納穀に関する業務を行う。
- 1506年頃 正徳年間 下地の川満大殿に命じて下地橋道(別名・加那浜橋)を造らせる。
(下地字上地の北方・崎田川の川口に今もその一部が残存している)。橋の長さ5町46間(約622m)、巾1間2尺(約2.4m)、高さ6尺(1.8m)
- 1522年頃 嘉靖年間 配下の精鋭24名(その他に女性4名加わる)を率いて与那国島に侵攻、島の首長・鬼虎(宮古狩俣出身)を討つ。
- 1522年 中山へ朝貢の折り、宝剣(治金丸又は千代金丸)を尚真王に奉獻、翌年尚真王より金頭銀茎簪2(獅子・鳳凰)、白絹衣装を賜う(「球陽」)

2世・玄屯 平良親雲上（童名・馬之子）

弘治年間(1488～1505年)生まれ、嘉靖年間(1522～1566年)卒

1522年 嘉靖元年 平良頭職に任じられる。

3世・玄保 西仲宗根与人（童名・空広）

弘治5(1492)年生まれ、嘉靖19(1540)年卒。49歳

1506～ 正徳年間 祖父玄雅に随って中山へ上国、西仲宗根与人に任じられる。

4世・玄守 平良親雲上（童名・馬之子）

嘉靖15(1536)年生まれ、万暦5(1577)年卒。42歳

1573年 万暦元年 平良親雲上に任じられる。

1574年 万暦2年 朝見を許され、中山へ上国する。

5世・玄與 新里与人（童名・空広）

万暦元(1573)年生まれ、万暦45(1617)年卒。45歳

1609 万暦37年 新里与人に任じられる。

同年、貢物率領となって中山へ上国する。

6世・玄恒 島尻首里大屋子（童名・馬之子）

万暦30(1602)年生まれ、順治4(1647)年卒。46歳

1621年 天啓元年 西仲宗根与人に任じられる。

1629年 崇禎2年 島尻首里大屋子に任じられる。

7世・玄淑 平良親雲上（童名：武佐）

- 1621(天啓元)年生まれ、1693(康熙32)年卒。73歳
1636(崇禎9)年 11月8日、16歳で国仲目差となる。
1645(順治2)年 8月10日、脇筆者となる。
1647(順治4)年 8月25日、27歳で西仲宗根与人に任じられる。
1656(順治13)年 7月1日、狩俣首里大屋子
1661(順治18)年 9月9日、41歳で平良頭職に任じられる。
1667(康熙6)年 下地頭白川氏恵隆、砂川頭宮金氏寛勝とともに、宮古の頭3名が不届きに付き退任となる。

8世・玄易 狩俣首里大屋子（童名：武佐）

- 1648(順治5)年生まれ、1699(康熙38)年卒。52歳
1667(康熙6)年 21歳で下里目差となる。
1669(康熙8)年 11月8日、大筆者に任じられる。
1672(康熙11)年 10月10日、大目差となる。
1674(康熙13)年 9月15日、27歳で洲鎌与人に任じられる。
1679(康熙18)年 貢物宰領として上国する。
1683(康熙22)年 5月15日、貢物宰領(2回目)として上国する。公事繁多で翌年2月8日に帰島。
1685(康熙24)年 9月1日、小唐船が八重山で破損、その通報のため飛船使として上国
1686(康熙25)年 多良間船作事のため、八重山にわたる。
1688(康熙27)年 8月8日、狩俣首里大屋子に任じられる。
1691(康熙30)年 貢物宰領として4回目の上国。
1699(康熙38)年 5月23日、手札御改のことで飛脚使となって中山へ5回目の上国をし、使命を果たしての帰途、台風に遭い行方不明となる。

9世・玄邑 下地親雲上（童名：山戸）

- 1674(康熙13)年 生まれ、1724年(雍正2)年卒。51歳
1702(康熙34)年 8月15日、洲鎌目差に任じられる。
1706(康熙38)年 貢物宰領として中山へ上国し、同年帰島。
1703(康熙42)年 8月26日、脇筆者に任じられる。
1704(康熙43)年 忠導氏玄林砂川親雲上に随行して中山へ上国、同年帰島
1705(康熙44)年 在番筆者照屋筑登之親雲上、忠導氏玄林砂川親雲上に随行して多良間島の風俗を見聞し、帰島。
1705(康熙44)年 9月10日、大目差に任じられる。
1706(康熙45)年 在番筆者喜舎場筑登之親雲上、忠導氏玄林砂川親雲上に随行して多良間島での公事をすませ帰島。
1708(康熙47)年 塩川与人に任じられる。
1710(康熙49)年 御統米宰領として中山(尚益王)に上国し、同年帰島
1711(康熙50)年 多良間島の風俗を見聞し、帰島。
1712(康熙51)年 多良間船作事寺役として八重山に渡り、同年帰島
1713(康熙52)年 松原首里大屋子に任じられる
1718(康熙57)年 貢物宰領となって中山へ上国する。
1719(康熙58)年 黄冠に叙せられる。
1723(雍正元)年 朝見のため上国、同年9月15日に下地の頭職に任じられ、同年10月に那覇を出発したが、暴風雨にあい南にむけて漂流。11月11日夜、干瀬に乗り上げて近くの無人島にたどりつき、干瀬に打ち揚げられた破船の木片を寄せ集め、7ヶ月かかって船を造り、翌年4月7日北へ向けて出発。21日

に台湾に着いたが、淡水沖でまた破船。27日に淡水を出て、5月11日に台湾の都へ着く。22日台湾を出て、24日関洪に到り、6月16日病死する。

10世・玄賢 狩俣親雲上（童名：武佐）

1698(康熙37)年生まれ、1774(乾隆39)年卒。77歳

1724(雍正2)年 若手子となる

1725(雍正3)年 上地目差に任じられる。

1733(雍正11)年 貢物宰領として、仲立船で中山(尚敬王)へ上国、帰島

1734(雍正12)年 水納目差に任じられる。

1736(乾隆元年)年 ~11年間に新里目差、西里目差、塩川与人、保良与人に任じられる。

1748(乾隆13)年 6月、貢物宰領として中山へ向けて出発したが、暴風雨に会い、同13日に肥前国(佐賀県?)に漂着、薩摩へ送られ4ヶ月滞留。9月1日に大風のため破損し、12月5日大和船で中山へ、同冬帰島する。

1751(乾隆16)年 船作事のため、八重山へ渡る。

1753(乾隆18)年 黄冠に叙せられる。

1757(乾隆22)年 忠導氏家譜の編集に当たり、その序文を記す。

1757(乾隆22)年 貢物宰領のため、後立船で3回目の上国する。

9月16日、友利首里大屋子に任じられる。

1758(乾隆23)年 9月6日、多良間首里大屋子に任じられる。

1760(乾隆25)年 狩俣首里大屋子に任じられる。

1761(乾隆26)年 貢物宰領として仲立船にて4回目の上国。中山に到る。

9月9日勢頭座敷に叙せられる。

1762(乾隆27)年 惣横目に叙せられる。

11世・玄佐 下地仁屋（童名：山戸）

1727(雍正5)年生まれ、卒年不詳。

1753(乾隆18)年 仮若文字となる。

11世・玄孝 池間与人（童名：山戸）

1731(雍正9)年生まれ、1789(乾隆54)年卒。58歳

1763(乾隆28)年 江戸献上用の馬の宰領として中山へ上国する。同年5月16日若文字。

1774(乾隆39)年 中城王子の上国記念のおみやげとして扇子1箱白麻10帖を拝領する。

1774(乾隆42)年 貢物宰領として春立船にて中山へ上り、帰りに八重山廻りの出物注文役を仰せつけられて彼の島へ渡り、翌年の夏帰島する。

1778(乾隆43)年 池間与人に任じられる。

1780(乾隆45)年 黄冠に叙せられる。

12世・玄致 来間与人（童名：武佐）

1754(乾隆19)年生まれ、1817(嘉慶22)年卒。64歳

1780(乾隆45)年 5月25日耕作仮筆者となる。

1790(乾隆55)年 10月15日杣山筆者となる。

1793(乾隆58)年 新里目差の時、曖村の百姓を励まして農業に精出した結果、当年の年貢を皆納した上、御用布代や諸物品代、更には余村の上納米へ差し足したことは殊勝であるとして、三司官より奉書を賜う。

1797(嘉慶2)年 貢物、御用布の宰領として春立船で上国

- 1800(嘉慶5)年 9月18日、筑登之座敷に叙せられる
- 1804(嘉慶9)年 8月25日、水納目差となるこの時、新里目差役の頃、他村と違い年貢米を不足なく皆納したことで褒賞された。
- 1805(嘉慶10)年 ~嘉慶11年多良間上納布宰領として本島に渡り公務を終えて帰島
8月27日、荷川取目差に転ずる。
- 1807(嘉慶12)年 貢物宰領として後立馬艦より上国する。
- 1808(嘉慶13)年 8月21日、来問与人となる。

12世・玄持 下地仁屋(童名:屋真)

- 1757(乾隆22)年生まれ、1817(嘉慶22)年卒。61歳
- 1784(乾隆49)年 10月21日、友利村耕作仮筆者となる。
- 1791(乾隆56)年 10月22日、曖村の去年度の未進穀分を上納させた働きは殊勝であるとして、三司官より奉書を賜う。
- 1793(乾隆58)年 上納貢の皆納、御用布や諸品代を他村の上納米へ差しだしたことは、殊勝であると賞せられる
- 1795(乾隆60)年 卯2月、皆納の賞詞を受ける。
- 1800(嘉慶5)年 9月28日、友利村耕作筆者のとき、飢饉の飯料に備えるため、ソテツを人頭に割り当てて植え付けさせた上、更に村々に命じて手広く仕立てたことは殊勝であるとして、小禄親雲上より褒賞を賜う。
- 1801(嘉慶6)年 11月12日、上地村耕作筆者となる。
- 1804(嘉慶9)年 赤八巻に叙せられる。
- 1812(嘉慶17)年 筑登之座敷を頂戴する。

13世・玄陳 下地仁屋(童名:松)

- 1780(乾隆45)年生まれ、1840(道光20)年卒。61歳
- 1802(嘉慶7)年 11月12日、上地村耕作仮筆者となる。
- 1811(嘉慶16)年 3月25日、荷川取村山筆者となる。
野原村山筆者となる。
- 1812(嘉慶17)年 9月8日、下里目差となる。
- 1818(嘉慶23)年 曖村の帳面不行き届きのかどで久米島へ四ヵ年の流刑を受ける。
- 1822(道光2)年 9月19日、刑期を終えて帰島する。
10月8日、特別な慈悲によって国仲村耕作仮筆者となる。
- 1823(道光3)年 10月28日、松原村耕作筆者となる。
11月11日、比嘉村耕作筆者となる。
- 1825(道光5)年 8月29日、仲地目差となる。
- 1830(道光10)年 8月10日、嘉手苺与人となる。
- 1837(道光17)年 9月18日、黄八巻を頂戴す。

14世・玄安 平良親雲上(童名:屋真)

- 1815(嘉慶20)年生まれ、卒年不詳。
- 1837(道光17)年 8月22日、仲筋村耕作筆者となり(23歳)、その後砂川村耕作仮筆者、西里村耕作仮筆者、西里村耕作筆者、前里村耕作筆者を歴任。
- 1841(道光21)年 8月16日、平安名目差に任じられる。
- 1846(道光26)年 5月8日、御物穀並諸御用物宰領として、春立船で上国、同年協目差
- 1847(道光27)年 筑登之座敷にのぼり、大筆者となる。

- 1848(道光 28)年 8月22日、大目差となる。
- 1849(道光 29)年 5月16日、頭砂川親雲上に従い春立船で上国、仲立馬艦船で9月17日帰島
8月4日、新里与人となる(35歳)。
- 1850(道光 30)年 御物穀並諸御用物宰領として春立船で上国する。9月28日、仲立船で帰島
8月20日、黄八巻にのぼり、惣横目となる。
- 1851(咸豊元)年 4月7日、狩侯首里大屋子となる(37歳)。
8月19日、同年、惣横目となる
- 1853(咸豊 3)年 1月8日、御使者新嘉喜里之子親雲上に付き添って多良間島へ渡り、3月12日帰島する。
- 1856(咸豊 6)年 12月21日、多良間詰役の上納物割重み、風俗、農事、諸上納物を糺す
御検使の命で、馬艦船で多良間島に渡る
- 1857(咸豊 7)年 4月13日、同船で宮古島に帰島する。
10月15日、勢頭座敷を頂戴する。
- 1858(咸豊 8)年 11月6日、座敷に任じられる。
- 1859(咸豊 9)年 多良間島御手札御改めの頭足となって、馬艦船で多良間島に渡海。7月2日、同船で帰島。
- 1861(咸豊 11)年 2月15日、惣横目として馬艦船で上国(5回目)する。
数年前から飢饉や異変が相次ぎ未進穀も増えるばかりであったが、3年前から大浦湾の東方、田原と称する荒地を開墾し、約1万7千6百坪の水田と約1万7千坪の畠を開墾して米と粟を作り、年貢高2百28石を3カ年で皆納する。(その功によって、目差以下、筆者加勢人らは上国1度の星功を与えられたが、二才頭、さばくり人以下の者は何の位も与えられなかった。
同年、狩侯役人、筆者加勢人らは、真芋・唐藍・芭蕉などを入念に仕立て、牛・馬・豚・山羊などを繁栄させ、また荒地を開墾して持地不足の者へ渡したことが認められ、上国1度の星功を与えられる。
- 1863(同治 2)年 3月29日、平良の頭職となり、御朱印を頂戴する(49歳)。
お召しのご用馬の目利方入念、御意に叶い、大美御殿より国分お多葉粉10把入1箱を拝領す。
- 1865(同治 4)年 5月9日、貢納のため、春立馬艦船で上国。10月19日、同船で帰島。
- 1867(同治 6)年 去年、冠船ご申請のとき、その経費が大分不足して困っていたが、各自その力に応じて穀物、反布、物品等を借用してもらい、おかげで大礼を無事にすまし、このたび返済することができた。そのご奉公の心はまことに殊勝である、として三司官よりの書状と共に大美御殿より国分おたばこ10把入り1箱を拝領する。(これがご冠船の最後となる)
- 1868(同治 7)年 5月20日、貢物のため、春立馬艦船で上国。11月3日、同船で帰島。
- 1870(同治 9)年 お召しのご用馬の件は目利方入念で御意に叶うとして、大美御殿より絹のたばこ入れ1、国分たばこ13把を拝領する。
- 1871(明治 4)年 貢納のため、春立船で第7回の上国をする。 台湾遭害事件

14世・玄盛 武富仁也(童名:松)

1824(道光 4)年生まれ、卒年不詳

1851(咸豊元)年 4月23日、久貝村耕作仮筆者となる。

1852(咸豊 2)年 12月11日、惣横目仮筆者となる。

1856(咸豊 6)年 12月12日、多良間詰役の上納物割重み、所俗の様子、農事諸仕付け、諸上納物等を糺すため、検使の命により馬艦船で多良間島へ渡り、翌年2月には更にそこから八重山に渡り、3月に再び多良間島に戻って、4月に同船で帰島する。

去る午年(1846年)に惣横目加勢筆者を仰せつけられてから、去る戌年(1850年)までの5年間、一方ならぬご用を相勤め殊勝であるとして、635日の星功を与えられる。

- 1859(咸豊9)年 11月15日、惣横目筆者となる。
- 1861(咸豊11)年 2月15日、惣横目御届けの為、馬艦船で上国する。10月13日帰島。
- 1865(同治4)年 3月18日、風俗や百姓の様子をみる為、多良間島へ渡る。3月18日帰島。
- 1866(同治5)年 3月27日、御冠船御用物の幸領として、馬艦船で上国。
10月26日、仲立馬艦船で帰島する。
- 1867(同治6)年 4月1日、風俗や百姓の様子をみるため、馬艦船で多良間島へ渡る。
4月26日、同船で帰島する。
- 1867(同治6)年 去年ご冠船申請についての入用銀が大分不足して困っていたが、その借用を申し渡したところ、各自、分に依じて穀物、反物、その他の物品を借りることができ、大札も無事に終わり、この度返済も無事にできた。そのご奉公は殊勝である、との書状が三司官よりきたる。
- 1868(同治7)年 7月9日、惣横目御届けの為、仲立馬艦船で上国する。10月24日帰島。
- 1869(同治8)年 去る辰年ご検使方に付きそって多良間島へ渡り、島中全体の様子などをあきらかにする。直ちに八重山へ渡り、人数・宗門改め取締りも兼務。二度とも格別なご用の働き殊勝であるとして500日の星功を与えられる。

14世・玄望 奥平仁屋(童名:屋真)

- 1828(道光8)年 生まれ、卒年不詳。
- 1863(同治2)年 10月23日、仮若手子となる。
- 1864(同治3)年 1858(咸豊8)年より1864(同治3)年までの7年間、学校所の加勢筆者をおおせつけられ、毎日座元に詰め込み精励したのは殊勝である、として775日の星功を与えられる。
- 1866(同治5)年 去年、島尻村渡地に唐人漂着し、島中風気(はやりかぜ)の折にもかかわらず、無事にその肝煎り役(世話役)の任務を完うしたのは殊勝であるとして勤星34日の功を受ける。
- 1868(同治7)年 手札御改帳取締り筆者をおおせつけられて、死人・他村出入人、等を改め生子・欠落人・病者・片輪者・癩病人・流罪人等、種々差し分けて取り締まりにあたったが、近年は名子人の出入りも繁しく、しかも去年は麻疹の死者も多く、そのため帳面の取締りはむつかしくて、その首尾はどうなるのかと心配であったが、昼夜を重ねて座元に詰め込み、心力を尽して精励しその任務を完うした働きは殊勝である、として700日の星功を受ける。
- 1869(同治8)年 6月14日、献上馬幸領として馬艦船で上国。11月5日春立馬艦船で帰島。
11月24日、若文子となる。

15世・玄教 大宜味仁屋(童名:武佐)

- 1848(道光28)年 生まれ、卒年不詳。
- 1867(同治5)年 8月19日、仮若手子となる。
- 1868(同治6)年 若文子となる。
- 1869(同治8)年 去年、蔵元元譜(造築)については、検見役並びに同筆者をおおせつけられ、ご用のほどをよくわきまえ、毎日仕事場に詰め込み、工事人の精・無精から、手間・飯米・諸入り目などすべて取締り、その働きは殊勝である、として376日の勲功を受ける。
- 1871(同治10)年 新城目差となる。
- 1874(同治13)年 東仲宗根目差となる。その覚書は次のとおり。
1. 宮古島平良五か村のうち、西里、下里、東仲宗根3か村は、人民繁榮し下知方いよいよ難しく、従って与人は惣横目へ、目差は蔵筆者へ召し進め、3か村の与人目差は、諸役人の内より、見合う人物を相替わるようにする。
 1. 西里村と池間村は人民繁榮してその下知も及ばなくなったので、新しく村立てをして、今年の

秋には新村へ引っ越すことにする。西里村から分けた新村の名は福里とよび、池間から分けた新村は西原と唱える。

- 1875(光緒元)年 6月6日、脇筆者となる。その覚書の骨子は次のとおり。
新城村における唐藍・木綿花・芭蕉・芋・ソテツ・菜園などのいずれも手入れが行き届き、万一の凶変にも備え得るだけだけの収穫が予想できる。同年、新村の儀、農事諸仕付け、諸上木仕立て方などが行き届き、下知方入念の働きは殊勲であるとして700日の勲功を受ける。
- 1876(光緒2)年 8月29日 脇目差に任じられる。
- 1877(光緒3)年 9月15日 洲鎌与人となる。

16世・玄綱(童名・松金)

1870(同治9)年生まれ、卒年不詳

上記「家譜資料」より

16世・仲宗根玄純(旧名・玄綱)

1877(明治10)年9月生まれ。1942(昭和17)年8月卒 享年64歳

平良間切東仲宗根村に生まれる。

1912(明治45)年 10月、第4代宮古島郵便局長となる。家屋の一部を郵便局舎にあて業務を営む。(屋号も「外間」の他に「元郵便」ともよばれる。)

1923(大正12)年 1月まで勤務。退職後は宮古上布の仲継販売業を営む。

上記「平良市史 第8巻資料編6(考古・人物・補遺)」より

戒名	官名	字名	名前	世	生年	卒年
潮音慧海禪定門	狩俣首里大屋子	武佐	玄易	八世	順治五〜康熙三八年	一六四八〜一六九九
松岩宗榮禪定門	平良大首里大屋子（平良親雲上）	武佐	玄淑	七世	天啓元〜康熙三二年	一六二一〜一六九三
素實道樸信男	島尻首里大屋子	馬之子	玄恒	六世	万曆三〇〜順治四年	一六〇二〜一六四七
海月一空禪定門	新里与人	空廣	玄興（実父・白川氏恵長）	五世	万曆元〜万曆四五年	一五七三〜一六一七
義翁宗貞信男	平良大首里大屋子	武佐（家譜・馬之子）	玄守	四世	嘉靖一五〜万曆五年	一五三六〜一五七七
以傳道授禪定門	西仲宗根与人	空廣 八重山豊見や嫡子	玄保	三世	弘治五〜嘉靖十九年	一四九二〜一五四〇
緑溪良因信男	平良大首里大屋子義本居士四男	馬之子 祭金二弟	玄屯（平良親雲上）	二世	弘治年間〜嘉靖年間	
義伯宗林禪定門		八重山豊見親 祭金		二世	成化年間〜嘉靖年間	
徳嚴義本居士	仲宗根豊見や	空廣		元祖	天順年間〜嘉靖年間	
浄安妙心禪定尼	豊見や大安母	宇津免嘉（野崎村安嘉宇立親女）		元祖	天順年間〜嘉靖年間	
浄信祖入禪定尼		免嘉真良（松原村赤宇立親女）		二世	成化年間〜嘉靖年間	
妙雲性靈禪定尼	家譜に記載無し	辺計真良	玄屯の室名記載無し			
高臺智鏡禪定尼		辺計真良（荷川取村高里女）		三世	弘治七〜嘉靖二六年	一四九四〜一五四七
妙定元修信女	外間大安母	保名人盛（西仲宗根与人女）	父・白川氏恵道	四世	嘉靖二三〜万曆四四年	一五四四〜一六一六
光普妙清禪定尼		保那利免嘉（根間与人女）	父・玻立氏泰次	五世	万曆四〜万曆四一年	一五七六〜一六一三
梅窓妙香禪定尼		保那人（下地親雲上長女）	父・白川氏恵立	六世	万曆二九〜天啓七年	一六〇一〜一六二七
花心淡月禪定尼	邊計真良	免嘉（平良親雲上女）	父・佐理氏安顯	七世	天啓元〜康熙二年	一六二一〜一六六三
南林妙薰禪定尼	嘉免 家譜に戒名記載無し	龜（国仲目差女） 戒名・良珍	父・益茂氏友利屋昌廣	八世	順治四〜雍正八年	一六四七〜一七三〇

〔裏〕

松原宗相信士一日過我山中見訪從容謂云我崇祖
 豊見也暨子孫有虧法名道號號者願為之安名余不獲
 固辭報染豪書之況豊見公有忠烈嘗航海為中山府
 君見寵愛恩榮殊渥以故号徳嚴居士積善第一家也
 蓋賦但言三章用羨之細故者別有家譜又有後人傳
 載口碑爰贅矣 詩云蓋世功名誰不知況將忠節

進丹口威言勇有力過人處掃蓋千軍寧見危 其二乘
 槎破浪入琉球一片丹衷曾未休貢物累年從 此始奉
 君之意重林丘 其三嚴：劫石了無磨鐵石 身心趣
 軫多二百餘春骨未汚孤墳普得鎮山河
 大清康熙五十四年乙未仲春現住龍寶山祥雲禪寺
 沙門慧心得髓鹽沐誌焉

末孫松原宗相信士立大牌謹奉祭化

*太文字は位牌記載
 *年号は中国年号

⑤「忠導氏系図家譜正統」にみる人々

*人名の太字は頭主

No.	父名	世	人名	童名	生年		亡年		役職	享年	母	室	後室	継室	戒名
					中国年号	西暦	中国年号	西暦							
1	真誉之子	1	玄雅	空廣	天順		嘉靖		仲宗根豊見親		免娥月	宇津免嘉			徳巖義本
2	玄雅	2	玄數	祭金	成化		嘉靖		八重山豊見親		宇津免嘉	免嘉			義伯宗休
3	玄雅	2	玄屯	馬之子	弘治		嘉靖		平良親雲上		宇津免嘉				緑溪良因
4	玄數	3	玄保	空廣	弘治5	1492	嘉靖19	1540	西仲宗根与人	49	免嘉	邊計真良			
5	玄保	4	玄守	馬之子	嘉靖15	1536	万曆5	1577	平良親雲上	42	邊計真良	保那人盛			義翁宗貞
6	玄守	5	玄與	空廣	万曆元	1573	万曆45	1617	新里与人	45	保那人盛	保那利			海月一空
7	玄與	6	玄恒	馬之子	万曆30	1602	順治4	1647	島尻首里大屋子	46	保那利	保那人			素實道摸
8	玄恒	7	玄淑	武佐	天啓元	1621	康熙32	1693	平良親雲上	73	保那人	免娥佐理			松岩宗栄
9	玄淑	8	玄易	武佐	順治4	1648	康熙38	1699	狩俣首里大屋子	52	免娥佐理	龜			潮音慧海
10	玄易	9	玄邑	山戸	康熙13	1674	雍正2	1724	下地親雲上	51	龜	仁喜屋寿盛			呑海道鯨
11	玄邑	10	玄賢	武佐	康熙37	1698	乾隆39	1774	狩俣親雲上	77	仁喜屋寿盛	免嘉			廊翁浄心
12	玄賢	11	玄佐	山戸	雍正5	1727			下地仁屋		免嘉				
13	玄賢	11	玄端	武佐	雍正10	1732	乾隆21	1756	下地仁屋	25	免嘉	免嘉			了一宗安
14	玄賢	11	玄考	山戸	雍正9	1731	乾隆54	1789	池間与人	59	免嘉	免嘉			義峯宗卓
15	玄考	12	玄致	武佐	乾隆19	1754	嘉慶22	1817	来間与人	64	免嘉	松			福巖宗澤
16	玄考	12	玄持	屋真	乾隆22	1757	嘉慶22	1817	下地仁屋	61	免嘉	嘉那			貫心宗悟
17	玄考	12	玄良	松	乾隆24	1759	乾隆30	1765		7	免嘉				
18	玄考	12	玄克	屋真	乾隆26	1761	嘉慶7	1802	津波古仁屋	42	免嘉	比良寿盛			心源宗
19	玄考	12	玄似	松	乾隆29	1764	嘉慶9	1804	平良仁屋	41	免嘉	免嘉	松		藍田宗玉
20	玄致	13	玄陳	松	乾隆45	1780	道光20	1840	下地仁屋	61	松	龜	金免嘉		仁心了義
21	玄致	13	玄記	金盛	乾隆49	1784	道光20	1840	幸地仁屋	57	松	仁計屋			寿岩宗清
22	玄持	13	玄通	松	乾隆46	1781	乾隆56	1791		11	嘉那				
23	玄持	13	玄業	松	嘉慶17	1812	嘉慶21	1816	下地仁屋	5	嘉那	龜			寛心宗悟
24	玄陳	14	玄矩	屋真	嘉慶11	1806	嘉慶20	1815		10	龜				
25	玄陳	14	玄伴	屋真	嘉慶13	1808	嘉慶15	1810		3	龜				
26	玄陳	14	玄安	屋真	嘉慶20	1815			平良親雲上		金免嘉	嘉那	龜	松	
27	玄陳	14	玄盛	松	道光4	1824			武富仁屋		金免嘉	嘉那	仁計屋千代		
28	玄陳	14	玄望	屋真	道光8	1828			奥平仁屋		金免嘉	免嘉	龜	龜	
29	玄記	14	玄悦	武佐	道光14	1834			下地仁屋		仁計屋	蒲戸			
30	玄克	13	玄知	屋真	嘉慶2	1797	道光17	1837	平良仁屋	41	比良寿盛	屋真			寒光朗月
31	玄克	13	玄敏	蒲	嘉慶11	1806	道光22	1842	池間仁屋	37	比良寿盛	龜			菊山自香
32	玄似	13	玄快	武佐	嘉慶2	1797	道光3	1823	池間仁屋	27	松				安心常養

No.	父名	世	人名	童名	生年		亡年		役職	享年	母	室	後室	継室	戒名
					中国年号	西曆	中国年号	西曆							
33	玄知	14	玄吉	屋真	道光8	1828	咸豊6	1856	小禄尔也	29	免嘉				一心宗光
34	玄知	14	玄孟	武佐	道光11	1831			垣花尔也		免嘉	蒲			
35	玄知	14	玄可	蒲	道光17	1837			池間尔也		免嘉	嘉那			
36	玄安	15	玄教	武佐	道光28	1848			大宜見仁也		免嘉	免嘉			
37	玄盛	15	玄集(當)	屋真	咸豊2	1852			小禄尔也		免嘉	松			
38	玄盛	15	玄章	松	道光26	1846			下地仁也		免嘉	嘉那			
39	玄盛	15	玄仁(本)	松	道光30	1850			下地仁也		免嘉	仁計屋千代			
40	玄盛	15	玄祥	蒲戸	咸豊4	1854			平良仁也		免嘉	仁計屋千代			
41	玄盛	15	玄茂	松	咸豊9	1859			下地仁也		免嘉	仁計屋千代			
42	玄盛	15	玄相	武佐	同治2	1863					免嘉	仁計屋千代			
43	玄盛	15	玄信	武佐	同治8	1869					免嘉	仁計屋千代			
44	玄望	15	玄愷	武佐	咸豊8	1858			豊見山仁也		免嘉				
45	玄望	15	玄序	武佐	咸豊11	1861					免嘉	龜			
46	玄望	15	玄誠	松	同治2	1863					免嘉	龜			
47	玄望	15	玄隆	松金	同治6	1867					免嘉	龜			
48	玄業	14	玄康	武佐	道光24	1844			棚原仁也		免嘉	龜			
49	玄業	14	玄秋	嘉那	道光27	1847			下地仁也		免嘉	龜			
50	玄孟	15	玄復	松	咸豊10	1860					免嘉	龜			
51	玄孟	15	玄令	松	同治7	1868					免嘉	松			
52	玄可	15	玄是	松	同治10	1862					免嘉	嘉那			
53	玄可	15	玄貫	蒲	同治4	1865					免嘉	嘉那			
54	玄可	15	玄介	松	同治10	1871					免嘉	嘉那			
55	玄可	15	玄嗣	松	光緒2	1876					免嘉	嘉那			
56	玄悦	15	玄修	金	咸豊11	1861					免嘉	蒲戸			
57	玄悦	15	玄刑	金	同治4	1865					免嘉	免嘉			
58	玄教	16	玄綱	松金	同治9	1870					免嘉	免嘉			
59	玄教	16	玄総	屋真	光緒3	1877					免嘉	免嘉			
60	玄章	16	玄栄	真津	同治10	1871					免嘉	免嘉			
61	玄章	16	玄智	蒲	光緒4	1878					免嘉	免嘉			
62	玄康	15	玄光	松	同治12	1873					免嘉	免嘉			
63	玄康	15	玄轉	與奴志	光緒4	1878					免嘉	免嘉			

【参考文献】

- ・沖縄県教育委員会 1979 年『辞令書等古文書調査報告』沖縄県文化財調査報告書第 18 集
- ・沖縄県教育委員会 1983 年『扁額・聯等遺品調査報告書』沖縄県文化財調査報告書第 44 集
- ・平良市史編さん委員会 1980 年『平良市史 第 3 卷 資料編 1』

『宮古島市総合博物館図録第 1 集 - 旧家資料編 -』

編 集：宮古島市総合博物館

〒 906-0102 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根添 1166-287

TEL:0980-73-0567 FAX:0980-73-0822

発 行：宮古島市教育委員会

発行日：平成 23（2012）年 3 月

印 刷：有限会社アプロ